

生徒の学習習慣および教員の学習指導改善に関する考察

—「高校生の自発的学習状況等に関するアンケート調査」の分析を通して—

総合支援部高等学校支援課第1班 実務研修員 尾上 容子

1 主題設定の理由

新しい高等学校学習指導要領が、令和4年度入学生より年次進行で実施された。「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編」では、「教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す」ことなどを基本方針としている。

さらに、中央教育審議会答申（令和3年1月『令和の日本型学校教育』の構築を目指して）（以下、「令和3年答申」）では、「急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力」について、「目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことなど、正に新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められている」としている。また、新時代に対応した高等学校教育等の在り方について、「高校生の現状の一つとして、学校生活への満足度や学習意欲が中学校段階に比べて低下しており、高等学校における教育活動を、高校生を中心に据えることを改めて確認し、その学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するためのものへと転換することが急務である」と指摘している。

このように、高等学校では、学習指導要領が示す資質・能力を育成するための教育活動の質の向上を目指し、生徒の学習意欲を喚起することが求められている。そこで、本県高校生の現状を把握する必要があると考え、本県で行われている「高校生の自発的学習状況等に関するアンケート調査」（以下、「アンケート調査」）の分析を行うこととした。なお、この「アンケート調査」は、「本県の高校生の自発的学習状況等を調査して、生徒の学習方法や教員の指導方法に係る改善策を検討し、学力向上を図る」ことを目的とし、公立高等学校全日制の課程1、2年生を対象に、定期的に行われている。実施要項ならびに質問紙は別添のとおりである。

2 研究の目的

「アンケート調査」の目的を踏まえ、以下の3点を研究の目的とした。

- (1) 生徒が自発的に学習する動機を明らかにし、学習時間に与える影響力の強さを把握する。
- (2) 生徒の家庭学習に対する悩みと家庭学習時間、家庭学習に対する悩みと授業に関する設問への回答との関連性を把握する。
- (3) (1)、(2)について複数年度のデータを比較し、生徒の学習方法および教員の指導方法に係る改善策を検討する。

3 研究の方法

(1) 生徒の学習時間についての分析

学校内外での学習・生活状況や進路希望に関する設問への回答を独立変数（原因となる変数）、学習時間に関する設問への回答を従属変数（結果となる変数）とした重回帰分析を行う。その結果から、生徒が自発的に学習する動機と学習時間への影響力の強さを把握する。

(2) 生徒の家庭学習に対する悩みについての分析

ア 「家庭学習上の悩み」を独立変数、学習時間に関する設問への回答を従属変数とした分散分析を行い、「総学習時間」の平均値を比較する。

イ 「家庭学習上の悩み」と授業に関する設問への回答とのクロス集計を行い、関連性を考察する。

(3) 分析結果の比較

ア 同学年間の比較（令和元年度調査（2年生）と令和4年度調査（2年生））

イ 同一集団の経年比較（令和3年度調査（1年生）と令和4年度調査（2年生））

4 研究の内容

(1) 生徒の学習時間についての分析

「アンケート調査」の設問を、表1の通り、回答項目の序列の有無によって分類し、次のア～エの手順で生徒が自発的に学習する動機と学習時間への影響力の強さを分析することとした。

表1 「アンケート調査」の設問一覧

回答項目に序列がある設問	回答項目に序列がない設問
部活動週当たり活動日数	性別 ※2
部活動平日活動時間	部活動所属状況
部活動土日活動状況	卒業後の希望進路
平日帰宅時間	将来就きたい職業
学校の学業成績	通塾状況
1年次の学校の学業成績（令和3年度除く）	家庭学習の中心①
授業への取組	家庭学習の中心②
授業の理解度	平日午後9時にやっていること
授業で力がついた実感	平日の夜の過ごし方 ※2
通塾頻度 ※2	休日の過ごし方 ※2
平日学習時間 ※1	家庭学習上の悩み
休日学習時間 ※1	家庭学習をあと15分増やす方策 ※2
平日家庭学習開始時刻	
平日睡眠時間	
平日読書時間	
平日スマホ使用時間（学習以外）	

※1 「総学習時間」として合成し、従属変数として使用した項目

※2 分析対象から除外した項目

ア 学習時間に関する設問について

「アンケート調査」では、学習時間に関する設問として「平日学習時間」と「休日学習時間」の2つがある。この2つの設問を合成することが可能か確かめるため、信頼性分析を行った。その結果、内的整合性を表す α 係数が、0.886（令和元年度調査）、0.856（令和3年度調査）、0.877（令和4年度調査）といずれも数値が高かったため、「平日学習時間」と「休日学習時間」の回答番号の数値を合計したものを「総学習時間」とし、従属変数として以後の分析で使用する。

イ 回答項目に序列がある設問について

アで合成した「総学習時間」と、回答項目に序列がある13の設問との相関分析を行った（表2）。

表2 「総学習時間」との相関分析結果

		部活動週 当たり活 動日数	部活動平 日活動時 間	部活動土 日活動状 況	平日帰宅 時間	学校の学 業成績	一年次 の学校の学 業成績	授業への 取組	授業の理 解度	授業で力 がついた 実感	平日家庭 学習開始 時刻	平日睡眠 時間	平日読書 時間	平日スマ ホ使用時 間（学習 以外）
令和元年度 （2年生）	Pearsonの 相関係数	-.060**	-.044**	-.098**	.050**	-.143**	-.113**	-.260**	-.187**	-.195**	-.447**	-.117**	.041**	-.351**
	N	19964	19940	19914	20500	20457	20294	20502	20503	20492	20495	20449	20480	20477
令和3年度 （1年生）	Pearsonの 相関係数	-.077**	-.050**	-.120**	0.011	-.096**		-.268**	-.171**	-.186**	-.427**	-.053**	.063**	-.327**
	N	17245	17215	17196	17415	17388		17400	17423	17417	17422	17399	17414	17416
令和4年度 （2年生）	Pearsonの 相関係数	-.081**	-.060**	-.121**	.084**	-.163**	-.120**	-.257**	-.219**	-.186**	-.451**	-.045**	.036**	-.332**
	N	16352	16010	15938	16945	16948	16943	16947	16946	16946	16946	16940	16944	16945

**、相関係数は0%水準で有意（両側）

その結果、3か年ともわずかに相関が見られた（相関係数が概ね-0.2を下回った）「授業への取組」、「授業の理解度」、「授業で力がついた実感」、「平日家庭学習開始時刻」、「平日スマホ使用時間（学習以外）」の5つの設問を、エで行う重回帰分析において独立変数として使用することとした。

表3 変換後の設問一覧

変換前	部活動所属状況	卒業後の希望進路	将来就きたい職業	通塾状況	家庭学習の中心①	家庭学習の中心②	平日午後9時にやっていること
変換後	運動部ダミー	大学ダミー	職業ダミー	通塾ダミー	家庭学習①ダミー	家庭学習②ダミー	午後9時ダミー
0	【運動部】 ・運動部	【大学進学希望者以外】 ・看護・医療系の短大・専門 ・看護・医療系以外の短大・専門 ・就職 ・その他 ・未定	【考えていない】 ・考えていない	【現在は通っていない】 ・中学校の時のみ通っていた ・中高とも通っていない	【自主的な学習がない】 ・宿題と試験前の学習のみ ・試験前の学習のみ ・家庭学習はしていない	【宿題が主、しない】 ・学校から課された宿題 ・家庭学習はしない	【学習以外をしている】 ・部活動 ・移動 ・テレビ・ビデオの視聴 ・ゲーム等の遊び ・携帯電話・スマートフォンの使用 ・食事 ・入浴 ・その他
1	【運動部以外】 ・文化部 ・元運動部 ・元文化部 ・所属経験無	【大学進学希望者】 ・難関国公立大 ・国公立大 ・難関私立大 ・私立大 ・四大	【考えている】 ・決めており、努力している ・決まっているが、努力はしていない ・決まっていないが、考えている	【現在通っている】 ・中学校から通っている ・高校から通っている	【自主的な学習がある】 ・宿題と自主的な予習 ・宿題と自主的な復習 ・宿題と自主的な学習 ・予備校・塾・通信教育に関連した学習	【自主的な学習が主】 ・自分で必要と判断した学習 ・塾・予備校・通信教育に関連した学習	【学習をしている】 ・塾・予備校での学習 ・自宅での学習

ウ 回答項目に序列がない設問について

回答項目に序列がない12の設問のうち、ダミー変数に変換可能な7つの設問（「部活動活動状況」、「卒業後の希望進路」、「将来就きたい職業」、「通塾状況」、「家庭学習の中心①」、「家庭学習の中心②」、「平日午後9時にやっていること」）を選び、表3のように変換した。ダミー変数とは、序列のないデータを、「0」と「1」で序列化した変数をさす。そして、変換した7つの設問（ダミー変数）を、エで行う重回帰分析において独立変数として使用することとした。

エ 重回帰分析

イとウで抽出した12の設問を独立変数、「総学習時間」を従属変数とする重回帰分析を各年度について行った（表4）。重回帰分析では、標準化回帰係数の絶対値が高くなる独立変数ほど、従属変数に与える影響が強いと言える。

表4 「総学習時間」との重回帰分析結果

	令和元年度（2年生）			令和3年度（1年生）			令和4年度（2年生）					
	回帰係数	標準化回帰係数	有意確率	回帰係数	標準化回帰係数	有意確率	回帰係数	標準化回帰係数	有意確率			
授業への取組	-0.397	-0.072	0.000	-0.432	-0.078	0.000	-0.368	-0.067	0.000			
授業の理解度	-0.019	-0.003	0.604	-0.031	-0.005	0.430	-0.206	-0.031	0.000			
授業で力がついた実感	-0.178	-0.032	0.000	-0.117	-0.021	0.001	-0.063	-0.011	0.059			
平日家庭学習開始時刻	-0.462	-0.194	0.000	-0.462	-0.192	0.000	-0.463	-0.188	0.000			
平日スマホ使用時間（学習以外）	-0.201	-0.099	0.000	-0.201	-0.105	0.000	-0.198	-0.097	0.000			
運動部ダミー	0.562	0.077	0.000	0.499	0.070	0.000	0.545	0.073	0.000			
大学ダミー	1.762	0.240	0.000	1.256	0.176	0.000	1.466	0.194	0.000			
職業ダミー	0.322	0.021	0.000	0.608	0.049	0.000	0.308	0.019	0.000			
通塾ダミー	1.284	0.145	0.000	1.155	0.145	0.000	1.330	0.156	0.000			
家庭学習①ダミー	2.085	0.251	0.000	1.917	0.262	0.000	2.178	0.271	0.000			
家庭学習②ダミー	-0.027	-0.003	0.462	0.208	0.028	0.000	0.198	0.025	0.000			
午後9時ダミー	2.129	0.215	0.000	2.033	0.228	0.000	2.208	0.229	0.000			
度数	20438			17350			16938					
決定係数	0.574			0.525			0.584					
自由度調整済み決定係数	0.574			0.525			0.584					
回帰のF検定	F値	2297.660	有意確率	0.000	F値	1598.556	有意確率	0.000	F値	1979.439	有意確率	0.000

その結果、生徒の学習時間に強く影響を与える因子は、いずれの年度も「平日家庭学習開始時刻」、「大学ダミー」、「家庭学習①ダミー」、「午後9時ダミー」であった。つまり、帰宅して早い時間から学習に取り組んでいる者、大学進学を希望している者、家庭学習で宿題以外に自主的な学習をしている者、決まった時間（午後9時）に学習に取り組んでいる者ほど学習時間が長い傾向にあると言える。進路については、「職業ダミー」の影響が弱いことから、将来就きたい職業が決まっていたり、考えていたりすることよりも、大学進学を希望しているかどうか学習時間に与える影響が大きいと言える。また、学習習慣については、「家庭学習①ダミー」の影響が強く、「家庭学習②ダミー」の影響が極めて弱いことから、家庭学習で宿題以外に自主的な学習をし

ている者ほど学習時間は長くなるが、学校から課された宿題に時間をかけている者と自主的な学習に時間をかけている者とは学習時間に大差がないと言える。なお、年度ごとの比較に基づく考察は、(3) で後述する。

(2) 生徒の家庭学習に対する悩みについての分析

ア 「家庭学習上の悩み」と学習時間に関する設問との分散分析

この分析にあたり、「教員の学習指導に係る改善策」を検討するための指標として、「家庭学習上の悩み」を位置付けた。そして、「家庭学習上の悩み」を独立変数、「総学習時間」を従属変数とした分散分析を行い、「総学習時間」（「平日学習時間」と「休日学習時間」の回答番号の数値の和）の平均値を比較した（表5）。

表5 「家庭学習上の悩み」と「総学習時間」の分散分析結果

	令和元年度（2年生）			令和3年度（1年生）			令和4年度（2年生）		
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差
勉強の仕方が分からない	3259	5.260	3.318	2505	5.844	3.248	2167	5.284	3.241
内容が難しく、ひとりで取り組めない	1573	5.705	3.352	1395	6.682	3.200	1203	5.791	3.285
まじめにやっても成績が伸びない	1603	8.528	3.821	1486	9.166	3.516	1332	8.851	3.883
家庭学習に集中できない	2574	5.984	3.460	2035	6.808	3.338	2165	6.203	3.453
計画を実行できない、続けられない	3385	6.699	3.486	2653	6.845	3.313	2732	6.573	3.516
疲れて家庭学習をやれないことが多い	3757	6.042	3.374	3217	6.666	3.145	3383	6.367	3.348
増やしたいが、時間が取れない	1034	8.094	3.856	1013	8.520	3.545	864	8.344	3.863
宿題が多く、すべてこなせない	357	7.482	4.073	389	6.812	3.814	378	7.241	4.122
その他	450	6.482	4.090	309	7.278	4.067	295	7.156	4.539
今のところ悩みはない	2478	5.153	3.641	2418	6.247	3.913	2427	5.782	4.073
合計	20470	6.218	3.654	17420	6.870	3.534	16946	6.445	3.722
		F値	162.751		F値	131.579		F値	126.542
		有意確率	0.000		有意確率	0.000		有意確率	0.000

その結果、「まじめにやっても成績が伸びない」「増やしたいが、時間が取れない」と回答している者の「総学習時間」の平均値が、各年度とも共通して8ポイントを越えていることが明らかになった。つまり、家庭学習に真面目に取り組んでいるが、思うように成績が伸びず、さらに学習時間を増やす、という状況が起こっているのではないかと考えられる。また、学習時間は長い「まじめにやっても成績が伸びない」ということは、自分に適した勉強の仕方がわかっていない、という可能性も考えられる。さらに、「増やしたいが、時間が取れない」生徒も、すでに時間をかけて学習に取り組んでいるが、現状以上の学習時間を確保する改善策を見出せていない可能性も考えられる。

イ 「家庭学習上の悩み」と授業に関する設問とのクロス集計

「家庭学習上の悩み」と授業に関する3つの設問（「授業への取組」、「授業の理解度」、

「授業で力がついた実感」との関連性を分析するため、それぞれクロス集計を行った（表6，7，8）。（各年度ともすべて p=0.000）

表6 「家庭学習上の悩み」と「授業への取組」のクロス集計（上位3回答のみ）

授業への取組	令和元年度（2年生）		令和3年度（1年生）		令和4年度（2年生）	
自ら進んで	疲れて家庭学習をやれないことが多い	18.0%	今のところ悩みはない	17.8%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	20.7%
	計画を実行できない、続けられない	15.8%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	17.0%	今のところ悩みはない	18.0%
	今のところ悩みはない	13.6%	計画を実行できない、続けられない	13.0%	計画を実行できない、続けられない	14.1%
教師の指示に従って	疲れて家庭学習をやれないことが多い	19.1%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	19.5%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	20.3%
	計画を実行できない、続けられない	17.1%	計画を実行できない、続けられない	17.2%	計画を実行できない、続けられない	17.5%
	勉強の仕方が分からない	16.8%	勉強の仕方がわからない	14.9%	家庭学習に集中できない	14.2%
たまに取り組みず	勉強の仕方が分からない	20.2%	勉強の仕方がわからない	20.9%	勉強の仕方がわからない	18.3%
	疲れて家庭学習をやれないことが多い	16.5%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	17.9%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	17.2%
	計画を実行できない、続けられない	16.2%	計画を実行できない、続けられない	12.5%	計画を実行できない、続けられない	16.0%
まったく取り組みず	勉強の仕方が分からない	28.4%	今のところ悩みはない	28.3%	勉強の仕方がわからない	24.4%
	今のところ悩みはない	23.0%	勉強の仕方がわからない	18.5%	今のところ悩みはない	19.3%
	計画を実行できない、続けられない	10.4%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	13.0%	計画を実行できない、続けられない	11.9%
カイ2乗検定	713.571		605.680		739.532	

表7 「家庭学習上の悩み」と「授業の理解度」のクロス集計（上位3回答のみ）

授業の理解度	令和元年度（2年生）		令和3年度（1年生）		令和4年度（2年生）	
よくできている	今のところ悩みはない	28.5%	今のところ悩みはない	32.9%	今のところ悩みはない	32.4%
	疲れて家庭学習をやれないことが多い	15.9%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	15.4%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	17.8%
	計画を実行できない、続けられない	14.3%	計画を実行できない、続けられない	11.5%	計画を実行できない、続けられない	11.5%
だいたいできている	疲れて家庭学習をやれないことが多い	19.3%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	19.3%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	21.0%
	計画を実行できない、続けられない	18.0%	計画を実行できない、続けられない	16.6%	計画を実行できない、続けられない	17.4%
	勉強の仕方が分からない	14.4%	勉強の仕方がわからない	13.2%	家庭学習に集中できない	13.5%
あまりできていない	勉強の仕方が分からない	24.0%	勉強の仕方がわからない	22.1%	勉強の仕方がわからない	21.1%
	内容が難しく、ひとりで取り組みない	16.1%	内容が難しく、ひとりで取り組みない	17.7%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	17.2%
	疲れて家庭学習をやれないことが多い	16.0%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	17.0%	内容が難しく、ひとりで取り組みない	16.1%
ほとんどできていない	勉強の仕方が分からない	29.8%	勉強の仕方がわからない	31.0%	勉強の仕方がわからない	26.6%
	内容が難しく、ひとりで取り組みない	16.1%	内容が難しく、ひとりで取り組みない	17.6%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	12.9%
	今のところ悩みはない	13.0%	今のところ悩みはない	13.9%	計画を実行できない、続けられない	12.9%
カイ2乗検定	1486.378		1514.374		1393.832	

表8 「家庭学習上の悩み」と「授業で力がついた実感」のクロス集計（上位3回答のみ）

力がついた実感	令和元年度（2年生）		令和3年度（1年生）		令和4年度（2年生）	
実感できる	今のところ悩みはない	21.2%	今のところ悩みはない	25.5%	今のところ悩みはない	27.0%
	疲れて家庭学習をやれないことが多い	16.9%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	15.8%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	17.5%
	計画を実行できない、続けられない	15.7%	計画を実行できない、続けられない	13.0%	計画を実行できない、続けられない	13.6%
おおむね実感できる	疲れて家庭学習をやれないことが多い	19.2%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	18.9%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	20.9%
	計画を実行できない、続けられない	17.8%	計画を実行できない、続けられない	16.5%	計画を実行できない、続けられない	17.3%
	勉強の仕方が分からない	13.8%	今のところ悩みはない	14.1%	今のところ悩みはない	14.6%
あまり実感できない	勉強の仕方が分からない	19.7%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	19.1%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	19.2%
	疲れて家庭学習をやれないことが多い	17.8%	勉強の仕方がわからない	19.1%	勉強の仕方がわからない	17.1%
	計画を実行できない、続けられない	15.5%	計画を実行できない、続けられない	14.1%	計画を実行できない、続けられない	15.1%
まったく実感できない	勉強の仕方が分からない	22.6%	勉強の仕方がわからない	24.1%	勉強の仕方がわからない	20.9%
	今のところ悩みはない	18.0%	今のところ悩みはない	19.4%	今のところ悩みはない	16.0%
	疲れて家庭学習をやれないことが多い	13.1%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	11.7%	疲れて家庭学習をやれないことが多い	16.0%
カイ2乗検定	727.413		766.433		672.429	

その結果、3つの設問に否定的な回答をしている者ほど、「勉強の仕方がわからない」ことに悩みを持っている傾向が、すべての年度で共通して見られた。また、「授業の理解度」については、否定的な回答をしている者ほど「内容が難しく、一人で取り組みない」ことに悩みを持っている傾向が、すべての年度で共通して見られた。さらに、設問に最も肯定的な回答をしている者と最も否定的な回答をしている者に共通して「今のところ悩みはない」が多くなる傾向も、すべての年度で共通して見られた。肯

定的な回答をしている者の「今のところ悩みはない」は、授業への取組、理解度、力がついた実感も良好で、家庭学習も問題なく取り組んでいると考えられる。しかし、否定的な回答をしている者の「今のところ悩みはない」は、授業や家庭学習に対して、できなくても困っていない、という状態になっていると考えられる。

以上のような傾向に対し、教員の学習指導に係る改善策については5で後述する。

(3) 分析結果の比較

ア 同学年間の比較（令和元年度調査（2年生）と令和4年度調査（2年生））

表4の重回帰分析結果を比較すると、家庭学習時間に最も影響を与える因子となっているのは、「家庭学習①ダミー」であることに変化はなかった。しかし、令和4年度調査では「大学ダミー」の影響が弱くなっている点に注目した。

そこで、「卒業後の希望進路」と「総学習時間」との分散分析を行い、「総学習時間」の平均値を確認した(表9)。その結果、令和4年度調査では、令和元年度調査に比べ、「大学ダミー」で「0」に区分した回答項目の多くで「総学習時間」の平均値が増加していた。しかし、「大学ダミー」で「1」に区分した回答項目のうち、「国公立大」「私立大」「4大」と回答した者の平均値は減少していた。こうした傾向が、「大学ダミー」の影響を弱める結果になったと考えられる。

表9 「卒業後の希望進路」と「総学習時間」の分散分析結果

	大学ダミー	令和元年度（2年生）			令和3年度（1年生）			令和4年度（2年生）		
		N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差
難関国公立大	1	1481	10.354	3.491	1379	10.542	3.690	1503	10.811	3.711
国公立大		5259	8.444	3.202	5139	8.382	3.188	4813	8.250	3.224
難関私立大		408	8.640	3.674	241	8.722	3.422	336	8.801	3.532
私立大		2921	6.190	3.107	1647	6.468	3.030	2564	5.966	3.092
4大		997	6.196	3.217	1375	6.757	3.085	799	5.945	3.024
看護・医療系短大・専門	0	1032	5.016	2.769	849	5.830	2.933	931	4.992	2.910
看護・医療系以外の短大・専門		2304	4.523	2.666	1708	5.407	2.727	1740	4.542	2.671
就職		4402	3.754	2.327	2733	4.751	2.646	2978	3.951	2.379
その他		547	5.404	3.656	408	6.453	3.876	364	5.819	3.823
未定		1116	4.161	2.723	1944	5.258	2.950	920	4.176	2.762
合計		20467	6.217	3.654	17423	6.869	3.534	16948	6.445	3.722
		F値 1198.448			F値 599.160			F値 922.047		
		有意確率 0.000			有意確率 0.000			有意確率 0.000		

希望進路による家庭学習時間に変化が生じる要因として、大学入試を取り巻くさまざまな変化の影響が考えられる。まず、人口減による競争緩和があげられる。河合塾が示した「2022年度入試の特徴」によれば、大学志願者数は、ここ2年ほどスローペースで減少を続けているが、大学入学定員は大学・学部の新設、私立大の入学定員な

どにより、毎年増加している。競争緩和は今後も続く見込みとされており、選ばなければどこかの大学に入学できる「大学全入時代」に近づきつつある。次に、令和3年1月より大学入学共通テストが実施されることを見越し、転換期から新傾向問題を嫌忌して受験を回避する傾向が見られていたことがあげられる。大学入試センター研究開発部の内田・橋本は、「転換期の共通試験の受験者動向 ―センター試験から共通テストへ―」のまとめで、「共通テストの試行調査で明らかになった新傾向問題の極端な変化が嫌忌され、その出題傾向がセンター試験に前倒しで出題されることが予想されたため、早くから共通試験の受験を回避する行動があったとみられる。特に、私立大学への進学を目指す者は、個別入試をはじめ、推薦入試やAO入試など、従来型の対応で対処できる方式を選択したと考えられる。」と考察している（内田・橋本2022, 15）。また同論文では、国公立大学に出願する中核層は変わらず受験しており、共通テストが必要な者はいかなる状況であっても受験しているとしている。

このことから、中・下位層の私立大学を志望する生徒を中心に、共通テストの受験を回避して入学できる大学を選ぶ「安全志向」の傾向が高まっていると考えられ、学習時間に影響を与えていると考察した。

イ 同一集団の経年比較（令和3年度調査（1年生）と令和4年度調査（2年生））

表4の重回帰分析結果を比較すると、家庭学習時間に最も影響を与える因子となっているのは、「家庭学習①ダミー」であることに変化はなかった。しかし、令和4年度調査では、「大学ダミー」の影響が強くなっている点に注目した。

そこで、アで行った「卒業後の希望進路」と「総学習時間」との分散分析結果を両年度とも改めて確認した（表9）。その結果、令和4年度調査では、令和3年度調査に比べ、「難関国公立大学」、「難関私立大」と回答した者以外の平均値が下降していた。また、「大学ダミー」で「1」に区分した回答項目より、「大学ダミー」で「0」に区分した回答項目の方が「総学習時間」の平均値の下降ポイントが大きかったため、こうした傾向が、「大学ダミー」の影響を強める結果になったと考えられる。

学年による学習時間に差が生じる要因として、学年が上がるにつれて希望進路を固めていく傾向が強くなり、選択した希望進路が高い学力を要するか否かが関係していることが考えられる。ベネッセ教育総合研究所「データで考える子どもの世界」によれば、「受験が学習時間に与える影響は小学校段階（中学入試）から出ており、受験の該当学年ほど学習時間が長くなる。その上で、高校段階では、大卒希望は非大卒希望より学習時間が長く、入学偏差値の高い大学に入学した生徒ほど学習時間が長い傾向にある。」としている。また、「学習時間の内訳では、宿題にかかる時間に大差は無いため、自主的に行う家庭学習や塾での学習によって学習時間に差が出る。」ともしている。今回の「アンケート調査」でも、「家庭学習①ダミー」の影響が強いことから同様の傾向が見られると考えられる。

このことから、学年が上がるにつれて、受験を意識した影響が強くなる傾向が見られるが、令和元年度の2年生ほど受験を意識した影響が強く出なかったのは、前述し

たとおりと考察する。

5 研究のまとめ

(1) 生徒の学習習慣について

ア 生徒の学習時間について、平日の決まった時間に学習に取り組む習慣と自主的な学習の時間数が強く影響を及ぼしていることがわかった(表4)。各自で時間を決め、宿題以外にも自主的な学習に取り組むことを意識させたい。

イ 学習時間が長くても、「まじめにやっても成績が伸びない」「増やしたいが、時間が取れない」ことに悩んでいる者もいることがわかった(表5)。「まじめにやっても成績が伸びない」者については、やみくもに時間を増やすのではなく自分に合った勉強の仕方を考えさせたい。また、「増やしたいが、時間が取れない」者については、限られた時間の中で効率よく勉強する方法を考えさせたい。

ウ 分析結果の比較から、大学受験の有無と学年によって学習時間に与える影響が変化することがわかった。前述の「データで考える子どもの世界」では、「かねてから、日本の子どもたちは大学入試までは長時間勉強し、大学入学後に学習しないことが課題だと指摘されてきた」とあり、大学生は小学生より家庭学習時間が短いことを示している。競争緩和により、難関大を除いては受験のための勉強という意識は徐々に変わりつつある現状を踏まえ、進学後、さらには就職後も活かすことのできる「学習」に取り組ませたい。

(2) 教員の指導方法について

ア 生徒の学習時間について、「授業への取組」、「授業の理解度」、「授業で力がついた実感」が与える影響はかなり弱いことがわかった(表4)。しかし、生徒が「理解した」「力がついた」と実感できる授業づくりを進め、学習意欲を高めていくことで、学習時間に対する影響を強くすることができると思う。「アンケート調査」結果(表10)を確認すると、授業に関する3つの設問において、肯定的な回答をしている者がいずれの設問でも70~80%程度であるにも関わらず、「授業の理解度」、「授業で力がついた実感」において最も肯定的な回答をしている者は10%前後と非常に低い。このことから、この数値を上げていくための授業づくりが求められていると言える。

イ 生徒の抱える「家庭学習上の悩み」によって、学習時間に差があることがわかった(表5)。また、「家庭学習上の悩み」において、「勉強の仕方がわからない」「内容が難しく、一人で取り組めない」ことによって、授業に積極的に取り組めない生徒がいることもわかった(表6, 7, 8)。「令和3年答申」では、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援し、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、「協働的な学び」との一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である、としている。このことを踏まえ、生徒一人ひとりの学習状況や学習に対する悩みに目を向け、誰一人取り残さない学習指導を実現

させたい。

ウ (1) ウは教員も考えたい。そのために、学習指導要領で目指す「未来社会を切り拓くための資質・能力の育成」に重点を置いた学習活動を実現させたい。

表 10 授業に関する設問の「アンケート調査」結果

授業への取組	令和元年度（2年生）	令和3年度（1年生）	令和4年度（2年生）
1 自ら進んで	28.3%	34.3%	34.1%
2 教師の指示に従って	57.2%	55.0%	53.5%
3 たまに取り組みず	13.4%	10.2%	11.3%
4 まったく取り組みず	1.1%	0.5%	1.0%

授業の理解度	令和元年度（2年生）	令和3年度（1年生）	令和4年度（2年生）
1 よくできている	8.0%	10.7%	10.2%
2 だいたいできている	72.8%	72.5%	72.6%
3 あまりできていない	17.8%	15.8%	15.8%
4 ほとんどできていない	1.4%	1.1%	1.4%

授業で力が付いた実感	令和元年度（2年生）	令和3年度（1年生）	令和4年度（2年生）
1 実感できる	7.0%	11.0%	9.1%
2 おおむね実感できる	54.7%	60.4%	59.2%
3 あまり実感できない	34.7%	26.5%	28.6%
4 まったく実感できない	3.5%	2.2%	3.1%

【参考文献・資料】

文部科学省(2018) 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編』

中央教育審議会(2021) 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」

河合塾 Kei-Net(2022) 「2022年度入試の特徴」最終アクセス 2023年1月17日.
<https://www.keinet.ne.jp/exam/past/review/outline.html>

内田照久・橋本貴充(2022) 「転換期の共通試験の受験者動向 ―センター試験から共通テストへ―」日本テスト学会誌

ベネッセ教育総合研究所(2019) 「データで考える子どもの世界 第2回 学習時間のあり方を考える」最終アクセス 2023年1月17日.

<https://berd.benesse.jp/special/datachild/>

総教総高号外
令和4年10月3日

各公立高等学校長 様

静岡県教育委員会高校教育課長
静岡県総合教育センター所長
静岡県高等学校長協会長

高校生の自発的学習状況等に関するアンケート調査への協力について
(依頼)

このことについて、下記のとおり実施します。趣旨御理解の上、御協力願います。

記

1 趣旨

- (1) 本県の全日制高校生の自発的学習状況等を調査して、生徒の学習や生活に係る改善策を検討し、学力の向上を図る。
- (2) 県内一斉の統一した調査を行い、自校生徒と県内高校生との学習状況等を比較・分析することにより、教員の学習指導改善等の資料とする。

2 実施方法

添付した実施要領に基づき実施する。

3 回答方法

(1) 提出物

「集計表」(様式3)

ファイル名は、「学校番号、校名；集計表」

(例 下田高等学校の場合「1下田；集計表」)

(2) 提出方法

静岡県総合教育センターに電子メールに添付して送信する。

提出先 総合教育センター総合支援部高等学校支援課長(大野)

電子メールアドレス tatsuo1_ono@pref.shizuoka.lg.jp

メール件名「学校番号(半角数字)集計表(学校名)」

(例 下田高等学校の場合「1集計表(下田)」)

(3) 提出期限 令和4年12月9日(金)

4 取扱い等

- (1) 提出データについては、このアンケートの目的以外には使用しない。
- (2) 集計結果については、学校名が分からないよう配慮するなどして各学校に提供する。

担当 総合教育センター
高等学校支援課(大野)
電話 0537-24-9761

令和4年度高校生の自発的学習状況等に関するアンケート調査 実施要領

1 目的

本県の高校生の自発的学習状況等を調査して、生徒の学習方法や教員の指導方法に係る改善策を検討し、学力向上を図る。

2 調査対象校及び調査対象学年

- (1) 調査対象校
県内公立全日制高等学校
- (2) 調査対象学年
高校2年生全員を対象とする。

3 実施日程

- (1) 通常の学校教育活動が行われている状況下において、令和4年11月末までに、下記4により実施する。
- (2) 定期テスト・実力テスト等の行事直前でない各学校で定めた週を調査対象週とし、その間の家庭学習時間等の平均値を生徒が回答する。(平均値の算出にあたっては必ずしも毎日の記録をとる必要はない。)
- (3) 下記5により提出する。

4 実施方法

(1)又は(2)により実施する。必要に応じて、(1)及び(2)を併用して実施することができる。**生徒が回答に要する時間は10分程度です。**

- (1) Googleフォームによる実施 (別紙1参照)
 - ア 総合教育センターが作成した「元フォーム」をコピーし、「学校フォーム」を作成する。
 - イ 生徒向けに回答方法を案内する。(様式例は別紙2参照)
 - ウ 生徒がGoogleフォームにより、アンケートに回答する。
 - エ 「集計表」(様式3、エクセルシート)を作成する。
 - (ア) 回答をスプレッドシートに表示する。
 - (イ) 「集計表」に、生徒の回答データを貼り付ける。
 - (ウ) 「集計表」に、学校番号を「学校番号」シートを参照のうえ、入力する。
また、入力された学科名が正しいか確認する。
 - (エ) 回答方法を併用した場合は、全てを「集計表」にまとめる。
- (2) 調査用紙による実施
 - ア 添付の「令和4年度自発的学習状況調査用紙」の「学習状況等アンケート」(様式1)を各学校で対象生徒の人数分印刷する。
※A4横2ページで印刷すると裏表1枚に収まります。
※必ず、令和4年度版をお使いください。
 - イ 「生徒回答票」(様式2)を対象生徒の人数分印刷し、様式1の質問項目に生徒が回答を番号で記入する。

様式1 令和4年度高校生の自発的学習状況等に関するアンケート調査

このアンケートは、静岡県全日制高校生の自宅等での学習状況・生活状況を調査し、学習環境の改善と学力向上対策の検討をするために行うものです。特定の個人の学習時間を調査するために行うものではありません。日常の学習状況・生活状況をありのままに回答してください。

回答に際しては、すべて数字で一つだけ を選択して、別紙回答票に記入してください。

- 1 学年を選択してください。
1 1年生 2 2年生
- 2 普通科2年生の場合、類型(コース)を選択してください。普通科以外の場合は空欄としてください。
1 文系 2 理系 3 その他
- 3 性別を選択してください。
1 男 2 女
- 4 あなたが参加している部活動について教えてください。
1 運動部に入部している。
2 文化部に入部している。
3 運動部に入部していたが退部して現在所属していない。
4 文化部に入部していたが退部して現在所属していない。
5 部活動に所属したことはない。
- 5 部活動を行っている人(4で①または②と回答した人)は、週当たり平均して何日活動しますか。
1 ほとんど活動しない 5 4日
2 1日 6 5日
3 2日 7 6日
4 3日 8 7日
- 6 部活動を行っている人(4で①または②と回答した人)は、平日(授業がある月曜日から金曜日)に平均して何時間活動しますか。
1 1時間未満 5 2時間半から3時間
2 1時間から1時間半 6 3時間から3時間半
3 1時間半から2時間 7 3時間半から4時間
4 2時間から2時間半 8 4時間以上
- 7 部活動を行っている人(4で①または②と回答した人)は、土曜日・日曜日には、どの程度活動をしますか。
1 土曜日・日曜日ともに活動をしない。
2 土曜日・日曜日のどちらかに半日程度活動をする。
3 土曜日・日曜日のどちらかに午前・午後ともに活動をする。
4 土曜日・日曜日に合計1日半程度活動をする。
5 土曜日・日曜日のどちらも半日程度の活動をする。
6 土曜日・日曜日のどちらも午前・午後ともに活動をする。
- 8 平日(授業がある月曜日から金曜日)の帰宅時間は、平均して何時ごろですか。
1 午後5時前 5 午後8時から午後9時
2 午後5時から午後6時 6 午後9時から午後10時
3 午後6時から午後7時 7 午後10時以降
4 午後7時から午後8時
- 9 学校における学業成績は、次のどれに該当しますか。
1 学校の中で成績上位である。
2 学校の中で成績中位である。
3 学校の中で成績下位である。
- 10 2年生の場合、1年生の時の学校における学業成績は、次のどれに該当しますか。(1年生は回答しない)
1 学校の中で成績上位だった。
2 学校の中で成績中位だった。
3 学校の中で成績下位だった。

- 11** 授業への取り組み方は、次のどれに該当しますか。
- 1 自ら進んで授業に取り組んでいる。
 - 2 自ら進んで授業に取り組めてはいないが、教師の指示に従って学習している。
 - 3 授業に取り組めないことがたまにある。
 - 4 まったく授業には取り組めていない。
- 12** 学校の授業を理解できていますか。
- 1 よく理解できている。
 - 2 だいたい理解できている。
 - 3 あまり理解できていない。
 - 4 ほとんど理解できていない。
- 13** 学校の授業を受けた後、「力がついた」と実感できますか。
- 1 実感できる。
 - 2 おおむね実感できる。
 - 3 あまり実感できない。
 - 4 まったく実感できない。
- 14** 高校卒業後、現在最も強く希望している進路はどれですか。
- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 4年制(難関国公立大学) | 6 看護・医療系短期大学・専門学校 |
| 2 4年制(国公立大学) | 7 看護・医療系以外の短期大学・専門学校 |
| 3 4年制(難関私立大学) | 8 就職 |
| 4 4年制(私立大学・大学校) | 9 その他 |
| 5 4年制大学(国公立・私立は未定) | 10 未定 |
- 15** 将来就きたい職業が決まっていますか。
- 1 将来就きたい職業を決めており、必要な努力をしている。
 - 2 将来就きたい職業について決まっているが、特に努力をしていない。
 - 3 将来就きたい職業は決まっていないが、考えている。
 - 4 将来就きたい職業について考えていない。
- 16** 高校生になってから塾や予備校に通っていますか。
- 1 中学校のとき通っていて現在も通っている。
 - 2 中学校のときは通っていたが、現在は通っていない。
 - 3 中学校のときは通っていなかったが、現在は通っている。
 - 4 中学校のときも現在も通っていない。
- 17** 塾や予備校に通っている人(16で①または③と回答した人)は、週当たり何日通っていますか。
- | | |
|------|------|
| 1 1日 | 5 5日 |
| 2 2日 | 6 6日 |
| 3 3日 | 7 7日 |
| 4 4日 | |
- 18** 平日1日(授業がある月曜日から金曜日)の授業以外での学習時間(家庭での学習時間、放課後の学校での自主学習、塾・予備校での自習・講義等)は、平均してどれくらいですか。
- | | |
|------------|---------|
| 1 ほとんどしない | 6 3時間程度 |
| 2 30分程度 | 7 4時間程度 |
| 3 1時間程度 | 8 5時間程度 |
| 4 1時間30分程度 | 9 6時間以上 |
| 5 2時間程度 | |
- 19** 休日1日の学習時間(家庭での学習時間、学校での自主学習、塾・予備校での自習・講義等)は、平均してどれくらいですか。
- | | |
|------------|----------|
| 1 ほとんどしない | 6 3時間程度 |
| 2 30分程度 | 7 4時間程度 |
| 3 1時間程度 | 8 5時間程度 |
| 4 1時間30分程度 | 9 6時間程度 |
| 5 2時間程度 | 10 7時間以上 |

20 家庭学習は、何を中心に行っていますか。

- 1 宿題と試験前の学習のみ
- 2 宿題と自主的な予習
- 3 宿題と自主的な復習
- 4 宿題と自主学習な学習(予習・復習を含む)
- 5 試験前の学習のみ
- 6 予備校・塾・通信教育に関連した学習
- 7 家庭学習はしていない

21 家庭での学習内容のうちもっとも時間をかけているものを選んでください。

- 1 自分で必要と判断した学習
- 2 学校から課された宿題
- 3 塾・予備校・通信教育に関連した学習
- 4 家庭学習はしない

22 学校の授業がある日、帰宅後、いつから学習を始めますか。

- 1 帰宅後すぐ
- 2 夕食をとってから
- 3 寝る前
- 4 翌朝起きてから
- 5 特に決まっていない
- 6 家庭学習はしない

23 平日(授業がある月曜日から金曜日)の睡眠時間は、平均して何時間ですか。

- 1 4時間未満
- 2 4時間から5時間
- 3 5時間から6時間
- 4 6時間から7時間
- 5 7時間から8時間
- 6 8時間以上

24 平日(授業がある月曜日から金曜日)の午後9時ごろに通常何をしていますか。

- 1 部活動
- 2 移動
- 3 塾・予備校での学習
- 4 自宅での学習
- 5 テレビ・ビデオの視聴
- 6 ゲーム等の遊び
- 7 携帯電話・スマートフォンの使用
- 8 食事
- 9 入浴
- 10 その他

25 平日(授業がある月曜日から金曜日)に帰宅してから寝るまでの間に勉強以外で自宅ではどのように過ごすことが最も多いですか。

- 1 テレビやビデオなどを見る。
- 2 音楽やラジオを聴く。
- 3 テレビゲームなどの室内ゲームをする。
- 4 本(漫画や雑誌)を読む。
- 5 本(漫画や雑誌以外)を読む。
- 6 パソコンを操作している。
- 7 携帯電話・スマートフォンを使っている。
- 8 何もしないでのんびり過ごす。
- 9 スポーツ・運動をする。
- 10 その他

26 休日に自宅では勉強以外にどのように過ごすことが最も多いですか。

- 1 テレビやビデオなどを見る。
- 2 音楽やラジオを聴く。
- 3 テレビゲームなどの室内ゲームをする。
- 4 本(漫画や雑誌)を読む。
- 5 本(漫画や雑誌以外)を読む。
- 6 パソコンを操作している。
- 7 携帯電話・スマートフォンを使っている。
- 8 何もしないでのんびり過ごす。
- 9 スポーツ・運動をする。
- 10 その他

27

家庭での平日1日(授業がある月曜日から金曜日)の読書時間は、平均してどれくらいですか。漫画・雑誌の時間を除いてください。

- | | | | |
|---|----------|---|-------|
| 1 | ほとんど読まない | 6 | 3時間程度 |
| 2 | 30分程度 | 7 | 4時間程度 |
| 3 | 1時間程度 | 8 | 5時間程度 |
| 4 | 1時間30分程度 | 9 | 6時間以上 |
| 5 | 2時間程度 | | |

28

家庭での平日1日(授業がある月曜日から金曜日)の携帯電話・スマートフォンの使用時間(学習目的での使用を除く)は、平均してどれくらいですか。

- | | | | |
|---|-----------|---|-------|
| 1 | ほとんど使用しない | 6 | 3時間程度 |
| 2 | 30分程度 | 7 | 4時間程度 |
| 3 | 1時間程度 | 8 | 5時間程度 |
| 4 | 1時間30分程度 | 9 | 6時間以上 |
| 5 | 2時間程度 | | |

29

家庭学習するうえで、悩んでいることはなんですか。

- 1 勉強の仕方が分からない。
- 2 内容が難しく、ひとりで取り組むことができない。
- 3 まじめに取り組んでいるのに、成績が伸びない。
- 4 他のことが気になって、家庭学習に集中できない。
- 5 計画を実行できない、または続けられない。
- 6 疲れて家庭学習をやれないことが多い。
- 7 家庭学習の時間を増やしたいが、時間が取れない。
- 8 宿題が多く、すべてこなせない。
- 9 その他
- 10 今のところ悩みはない。

30

どうしたら、あと15分家庭学習を増やすことができますか。

- 1 寝る時間を遅くする。
- 2 帰宅時間を早くする。
- 3 余暇(テレビ・スマートフォン等)の時間を減らす。
- 4 夢や将来の目標をはっきりと持つ。
- 5 テストや検定などの具体的な目標を立てる。
- 6 計画表を作る。
- 7 家庭学習で何をすればいいか、先生からアドバイスをもらう。
- 8 宿題を出してもらい・増やしてもらう。
- 9 勉強に集中できる環境を作る。
- 10 その他

【別添3】

アンケート調査結果（令和元年度、3年度、4年度分のみ）

設問3 性別	R1	R3	R4
1 男	51.5%	51.7%	51.4%
2 女	48.5%	48.3%	48.6%

設問4 部活動所属状況	R1	R3	R4
1 運動部	53.5%	56.3%	53.4%
2 文化部	44.0%	42.7%	43.3%
3 元運動部	1.6%	0.6%	2.0%
4 元文化部	0.8%	0.2%	1.0%
5 所属経験無	0.2%	0.2%	0.2%

設問5 部活動週当たり活動日数	R1	R3	R4
1 ほとんど活動しない	5.3%	7.0%	7.6%
2 1日	12.0%	10.3%	11.4%
3 2日	6.9%	6.8%	7.8%
4 3日	5.6%	5.1%	4.9%
5 4日	3.5%	9.2%	9.4%
6 5日	14.3%	23.0%	22.1%
7 6日	45.4%	33.9%	33.1%
8 7日	6.9%	4.7%	3.7%

設問6 部活動平日活動時間	R1	R3	R4
1 1時間未満	11.9%	10.9%	11.7%
2 1時間～1時間30分	14.1%	16.0%	17.3%
3 1時間30分～2時間	17.7%	20.1%	21.6%
4 2時間～2時間30分	21.8%	22.1%	20.9%
5 2時間30分～3時間	19.5%	17.0%	15.3%
6 3時間～3時間30分	8.4%	8.2%	7.6%
7 3時間30分～4時間	4.0%	3.6%	3.4%
8 4時間以上	2.5%	2.1%	2.1%

設問7 部活動土日活動状況	R1	R3	R4
1 とともに活動をしない	33.7%	33.2%	35.2%
2 どちらかに半日程度	26.2%	30.6%	30.7%
3 どちらかに終日	5.3%	4.8%	4.6%
4 土日に計1日半程度	5.9%	4.5%	4.5%
5 どちらも半日程度	19.1%	18.9%	17.1%
6 どちらも終日	9.9%	7.9%	7.9%

設問8 平日帰宅時間	R1	R3	R4
1 午後5時前	10.7%	10.0%	11.7%
2 午後5時～6時	15.1%	16.0%	16.1%
3 午後6時～7時	16.1%	18.6%	17.3%
4 午後7時～8時	28.9%	30.0%	27.9%
5 午後8時～9時	19.3%	17.1%	17.0%
6 午後5時～10時	7.1%	6.1%	6.8%
7 午後10時以降	2.9%	2.3%	3.1%

設問9 学校の学業成績	R1	R3	R4
1 上位	17.3%	18.9%	18.9%
2 中位	51.6%	49.6%	51.4%
3 下位	31.1%	31.5%	29.7%

設問10 1年次の学校の学業成績	R1	R3	R4
1 上位	18.3%		19.8%
2 中位	52.2%		51.5%
3 下位	29.6%		28.7%

設問11 授業への取組	R1	R3	R4
1 自ら進んで	28.3%	34.3%	34.1%
2 教師の指示に従って	57.2%	55.0%	53.5%
3 たまに取り組みず	13.4%	10.2%	11.3%
4 まったく取り組みず	1.1%	0.5%	1.0%

設問12 授業の理解度	R1	R3	R4
1 よくできている	8.0%	10.7%	10.2%
2 だいたいできている	72.8%	72.5%	72.6%
3 あまりできていない	17.8%	15.8%	15.8%
4 ほとんどできていない	1.4%	1.1%	1.4%

設問13 授業で力が付いた実感	R1	R3	R4
1 実感できる	7.0%	11.0%	9.1%
2 おおむね実感できる	54.7%	60.4%	59.2%
3 あまり実感できない	34.7%	26.5%	28.6%
4 まったく実感できない	3.5%	2.2%	3.1%

設問14 卒業後の希望進路	R1	R3	R4
1 難関国公立大	7.2%	7.9%	8.9%
2 国公立大	25.7%	29.5%	28.4%
3 難関私立大	2.0%	1.4%	2.0%
4 私立大学	14.3%	9.5%	15.1%
5 4大(国公立・私立は未定)	4.9%	7.9%	4.7%
6 看護・医療系短大・専門	5.0%	4.9%	5.5%
7 看護・医療系以外の短大・専門	11.2%	9.8%	10.3%
8 就職	21.5%	15.7%	17.6%
9 その他	2.7%	2.4%	2.2%
10 未定	5.4%	11.2%	5.4%

設問15 将来就きたい職業	R1	R3	R4
1 決めており、努力している	21.0%	20.4%	23.7%
2 決まっているが、努力はしていない	28.3%	26.5%	25.8%
3 決まっていないが、考えている	44.8%	43.9%	45.0%
4 考えていない	6.0%	9.1%	5.6%

設問16 通塾状況	R1	R3	R4
1 中学校から通っている	19.3%	23.0%	22.6%
2 中学校のときのみ通っていた	57.2%	52.2%	52.9%
3 高校から通っている	2.7%	3.8%	3.1%
4 中高とも通っていない	20.8%	21.0%	21.4%

設問17 通塾頻度	R1	R3	R4
1 1日	29.3%	30.0%	28.8%
2 2日	27.2%	30.4%	25.8%
3 3日	18.2%	16.9%	15.9%
4 4日	9.7%	8.3%	9.7%
5 5日	8.9%	7.4%	10.1%
6 6日	4.2%	3.9%	6.1%
7 7日	2.5%	3.1%	3.6%

設問18 平日学習時間	R1	R3	R4
1 ほとんどしない	31.1%	21.3%	28.4%
2 30分程度	18.7%	20.9%	19.5%
3 1時間程度	19.2%	23.0%	20.3%
4 1時間30分程度	11.5%	15.0%	12.9%
5 2時間程度	13.5%	13.8%	12.8%
6 3時間程度	4.9%	4.8%	4.6%
7 4時間程度	0.8%	0.8%	1.1%
8 5時間程度	0.2%	0.3%	0.3%
9 6時間以上	0.1%	0.1%	0.1%

設問19 休日学習時間	R1	R3	R4
1 ほとんどしない	28.3%	17.9%	25.2%
2 30分程度	12.1%	12.8%	12.7%
3 1時間程度	15.9%	17.6%	15.7%
4 1時間30分程度	8.7%	11.1%	9.6%
5 2時間程度	15.1%	16.8%	15.1%
6 3時間程度	11.2%	12.4%	10.7%
7 4時間程度	4.8%	5.7%	5.3%
8 5時間程度	2.4%	3.1%	3.0%
9 6時間程度	1.0%	1.5%	1.5%
10 7時間以上	0.6%	1.0%	1.2%

設問20 家庭学習の中心①	R1	R3	R4
1 宿題と試験前の学習のみ	63.9%	56.2%	60.3%
2 宿題と自主的な予習	4.1%	5.8%	5.3%
3 宿題と自主的な復習	12.0%	18.5%	14.0%
4 宿題と自主的な学習（予習・復習を含む）	8.6%	11.5%	9.6%
5 試験前の学習のみ	4.7%	2.9%	4.1%
6 予備校・塾・通信教育に関連した学習	1.7%	1.4%	2.2%
7 家庭学習はしていない	5.0%	3.8%	4.4%

設問21 家庭学習の中心②	R1	R3	R4
1 自分で必要と判断した学習	29.1%	33.0%	32.2%
2 学校から課された宿題	62.5%	60.8%	59.5%
3 塾・予備校・通信教育に関連した学習	2.1%	1.7%	2.7%
4 家庭学習はしない	6.3%	4.5%	5.6%

設問22 平日家庭学習開始時刻	R1	R3	R4
1 帰宅後すぐ	5.3%	6.1%	6.4%
2 夕食をとってから	29.9%	33.0%	29.8%
3 寝る前	26.3%	27.2%	29.2%
4 翌朝起きてから	2.5%	2.3%	2.0%
5 特に決まっていない	24.3%	23.8%	22.1%
6 家庭学習はしない	11.6%	7.6%	10.5%

設問23 平日睡眠時間	R1	R3	R4
1 4時間未満	2.2%	2.4%	2.8%
2 4時間から5時間	11.5%	10.9%	12.5%
3 5時間から6時間	35.8%	33.8%	36.2%
4 6時間から7時間	39.1%	38.6%	36.9%
5 7時間から8時間	9.7%	11.9%	9.9%
6 8時間以上	1.6%	2.4%	1.7%

設問24 平日午後9時にやっていること	R1	R3	R4
1 部活動	1.7%	1.1%	1.2%
2 移動	5.8%	5.5%	5.5%
3 塾・予備校での学習	5.1%	4.9%	6.5%
4 自宅での学習	11.2%	14.8%	11.6%
5 テレビ・ビデオの視聴	6.6%	6.4%	6.1%
6 ゲーム等の遊び	8.5%	10.0%	9.1%
7 携帯電話・スマートフォンの使用	26.4%	22.6%	24.1%
8 食事	10.7%	9.9%	11.2%
9 入浴	20.1%	20.8%	20.5%
10 その他	3.8%	4.1%	4.1%

設問25 平日の夜の過ごし方	R1	R3	R4
1 テレビやビデオ	12.0%	11.0%	10.0%
2 音楽やラジオ	6.8%	7.6%	6.6%
3 テレビゲームなどの室内ゲーム	7.6%	10.3%	10.0%
4 本（漫画や雑誌）	1.7%	2.3%	2.0%
5 本（漫画や雑誌以外）	1.0%	1.2%	1.0%
6 パソコン	1.5%	2.0%	2.2%
7 携帯電話・スマートフォン	60.7%	57.6%	59.4%
8 何もしないでのんびり過ごす	3.6%	3.3%	3.6%
9 スポーツ・運動	1.6%	1.7%	1.7%
10 その他	3.2%	3.1%	3.6%

設問26 休日の過ごし方	R1	R3	R4
1 テレビやビデオ	14.3%	12.7%	11.7%
2 音楽やラジオ	3.7%	3.8%	3.8%
3 テレビゲームなどの室内ゲーム	9.5%	12.7%	12.4%
4 本（漫画や雑誌）	1.8%	2.2%	2.0%
5 本（漫画や雑誌以外）	1.0%	1.1%	0.9%
6 パソコン	1.6%	2.2%	2.1%
7 携帯電話・スマートフォン	47.9%	46.1%	48.6%
8 何もしないでのんびり過ごす	6.9%	5.4%	6.0%
9 スポーツ・運動	5.9%	7.5%	6.3%
10 その他	7.3%	6.2%	6.2%

設問27 平日読書時間	R1	R3	R4
1 ほとんど読書しない	74.1%	68.0%	72.9%
2 30分程度	16.1%	20.9%	17.9%
3 1時間程度	5.5%	6.8%	5.3%
4 1時間30分程度	1.6%	2.0%	1.6%
5 2時間程度	1.5%	1.4%	1.3%
6 3時間程度	0.6%	0.6%	0.5%
7 4時間程度	0.4%	0.2%	0.3%
8 5時間程度	0.1%	0.1%	0.0%
9 6時間以上	0.1%	0.1%	0.1%

設問28 平日スマホ使用時間（学習目的以外）	R1	R3	R4
1 ほとんど使用しない	2.9%	2.2%	2.2%
2 30分程度	5.9%	5.6%	4.4%
3 1時間程度	14.5%	13.8%	12.8%
4 1時間30分程度	14.0%	14.9%	14.1%
5 2時間程度	24.1%	23.1%	23.1%
6 3時間程度	21.2%	20.3%	22.1%
7 4時間程度	9.5%	10.3%	10.6%
8 5時間程度	4.4%	5.0%	5.4%
9 6時間以上	3.6%	4.9%	5.3%

設問29 家庭学習上の悩み	R1	R3	R4
1 勉強の仕方が分からない	15.9%	14.4%	12.8%
2 内容が難しく、ひとりで取り組めない	7.7%	8.0%	7.1%
3 まじめにやっても成績が伸びない	7.9%	8.5%	7.9%
4 家庭学習に集中できない	12.6%	11.7%	12.8%
5 計画を実行できない、続けられない	16.5%	15.2%	16.1%
6 疲れて家庭学習をやれないことが多い	18.3%	18.4%	20.0%
7 増やしたいが、時間が取れない	5.0%	5.8%	5.1%
8 宿題が多く、すべてこなせない	1.7%	2.2%	2.2%
9 その他	2.2%	1.8%	1.7%
10 今のところ悩みはない	12.1%	13.9%	14.3%

設問30 家庭学習をあと15分増やす方策	R1	R3	R4
1 寝る時間を遅くする	8.5%	7.8%	8.4%
2 帰宅時間を早くする	5.5%	6.3%	5.3%
3 余暇の時間を減らす	55.9%	56.5%	58.2%
4 夢や将来の目標をはっきりと持つ	6.3%	5.4%	5.8%
5 具体的な目標を立てる	4.4%	4.2%	4.1%
6 計画表を作る	3.2%	4.0%	3.6%
7 先生からアドバイスをもらう	1.2%	1.0%	1.2%
8 宿題を出してもらおう・増やしてもらおう	2.0%	2.0%	1.5%
9 勉強に集中できる環境を作る	9.3%	9.6%	8.4%
10 その他	3.7%	3.2%	3.5%